

# 平成 24 年度 第 3 回土木計画学研究委員会幹事会 議事録

日時：平成 24 年 09 月 29 日（土）13:00～15:30

場所：土木学会 A 会議室

## ■出席者

委員長：谷口栄一（京都大学）

幹事長：兵藤哲朗（東京海洋大学）

学術小委員長：溝上章志（熊本大学）

春大会運営小委員長：柿本竜治（熊本大学）

H24 秋大会開催校：久保田尚（埼玉大学）

委員兼幹事：鈴木弘司（名工大）、塚井誠人（広島大学）、日比野直彦（政策研究大）、森尾淳（IBS）、紀伊雅敦（香川大）、西形康太郎（JICA）、井田直人（北工大）、真田純子（徳島大）

## ■欠席者

山中英生（徳島大学）、福田敦（日本大学）、吉田長裕（大阪市大）、金子雄一郎（日大）、嶋本寛（京大）、平田輝満（運輸政策研究所）、三輪富生（名大）

## ■配布資料

資料 H24-3-0 平成 24 年度 第 3 回土木計画学研究委員会幹事会 議事次第

資料 H24-3-1 平成 24 年度 第 2 回土木計画学研究委員会 議事録（案）

資料 H24-3-2-1 「平成 25 年度 事業計画および予算案」作成のお願い

資料 H24-3-2-2 平成 25 年度 事業計画および予算編成の基本方針

資料 H24-3-2-3 調査研究拡充支援金の算定方法の見直しについて（ご報告）

資料 H24-3-3 平成 24 年度土木学会全国大会討論会企画について（開催報告）

資料 H24-3-4-1 第 47 回土木計画学研究発表会（春大会）企画テーマのセッション数決定と発表採否のお知らせ

資料 H24-3-4-2 第 47 回土木計画学研究発表会（春大会）の概要および企画論文部門オーガナイザーおよび SS オーガナイザーの公募について

資料 H24-3-5 IPML 移行に関する事前調査について

資料 H24-3-6 第 46 回土木計画学研究発表会（秋大会：埼玉大学）準備状況報告

資料 H24-3-7-1 平成 24 年度土木計画学研究委員会・第 3 回幹事会資料（学術小委員会）

資料 H24-3-7-2 学術小委員会委員長ミッションの検討内容と結果

## ■議事（案）

### 1. 前回幹事会議事録の確認（資料 H24-3-1）

兵藤幹事長より、前回幹事会の議事録について確認がなされ、原案の通り了承された。なお、前回議論となった J-RAIL での未収金については、岩倉先生に回収の対応を頂けるとの報告がされた。

## 2. 平成 24 年度幹事担当タスクの検討状況報告

### (1)活動評価・中期目標（資料 H24-3-2-1~H24-3-2-3）

兵藤幹事長より資料に基づき、説明がされた。今年度は中間評価が実施されないこと、予算計画は昨年度の資料を参考にしつつ、震災、100周年など今年度の事業計画の基本方針を取り入れ、10/18までに活動評価・中期目標担当委員で役割分担し、対応すること（取りまとめ：鈴木）、が確認された。

### (2)本委員会対応

紀伊委員兼幹事より、11/2（金）14:30-16:00より委員会が開催されること、出欠はメールで行うことが報告された。来年度秋大会開催校の大阪市立大内田先生に連絡が届いているか確認が必要であることが示された。

### (3)研究小委員会対応

森尾委員兼幹事より、次回委員会に向けて準備中である現状が報告された。

### (4)HP 担当

鈴木委員兼幹事より、リニューアル HP の現状が報告された。ページの作成ができ次第、幹事会メンバーで確認し、できるだけ早く公開する方針が確認された。また、英文 HP 作成（業者委託）のための予算について審議された。本件、学術小委員会の必要経費等を検討し、委員会として使用できる予算が明らかとなった後、対応することとなった。

### (5)国際セミナー

西形委員兼幹事より、9/19に開催された PPP に関するセミナーについての報告がされた。国際セミナーの案内については、リニューアル HP のトップページに掲載することが確認された。

### (6)国際センター担当

谷口委員長より現在の動向が報告された。その後、日本で学位を取り、国に帰った留学生のネットワークなど留学生の同窓会組織の必要性やポスドク研究員ポストに関する教員求人情報の必要性などについて議論した。留学生向けの求人情報については、リニューアル HP 内に作成する方向で検討することとなった。

### (7)ワンデイセミナー・シンポジウム

塚井委員兼幹事より、終了する小委員会に開催を打診することが報告された。ワンデイセミナーの開催可否に関しては幹事のメール審議に従うことが確認された。

### (7)全国大会研究討論会（資料 H24-3-3）

兵藤幹事長より、9/7 名古屋大学にて開催された全国大会研究討論会について報告がされた。次年度企画を年内に固める等のスケジュールが確認され、また、参加者数を増やす対策として、他委員会との連携を図るなどの工夫が必要であることが示された。

### 3. 学術小委員会報告（資料 H24-3-7-1, 3-7-2）

溝上学術小委員長より、D3 特集号 Vol.29 の編集結果・スケジュール、論文集編集に関する課題、秋大会プログラム編成、改善会議、計画学学術小委員会からの土木学会賞の推薦、新任委員案等の報告がされた。

- ・D3 特集号 Vol.29 の採択率について 2001 年～2012 年の 12 年で比較すると、今年が極端に低いわけではないこと、投稿数自体は 2012 年で 40 編程度増えていることが示された。
- ・論文集編集に関する課題として、取りまとめ委員、査読者の量的負荷、審査・編集スケジュール管理、著者が行うべき責任の確認が小委員会や事務局でしにくいことが示された。これらの改善策として、受け取り確認返信 mail の活用、著者責任を全うしない場合の対応、投稿論文ごとの処理対応が把握可能な web システムへの改良、修正対照表を土木学会論文集一般号と統一することが示された。
- ・改善会議が 3 年目委員、委員長、副委員長、幹事長で 9/6 全国大会時に開催され、春大会委員会と合同で春、秋、全国大会の役割について審議したこと、委員長ミッション「内・外への国際化」が検討されたことが示された。
- ・「内・外への国際化」に向けて、①海外研究者を交えた研究討論会の提案（来年秋大会での開催を予定）、②秋大会での英語セッションの復活試行（今年の秋大会から復活）が検討されたことが報告された。①については、中国、韓国、台湾などの研究者を招くこと、②については、次回からは英語セッションの開催を周知・広報する必要があることが示された。

### 4. 研究発表会の準備状況について

#### (1)H24 秋大会（資料 H24-3-6）

久保田先生より、H24 秋大会の準備状況について報告がされた。埼玉大学が後援となったため、施設利用料がすべて無料になったこと、ホテルがかなり逼迫しているため、予約を早めにした方がよいこと、セッション会場名について、建物名との関係がわかるように、通し番号（1～9）でなく、枝番号（I-1～I-3, II-1～II-6）としたい旨が示された。

### 5. H24 年度の幹事会タスクについて

・春大会・秋大会・全国大会のあり方について（資料 H24-3-4-1, 3-4-2）

- ・柿本春大会運営小委員長より、春大会の運営方法について説明がされ、各テーマのセッション数は春大会運営小委員会で決定すること、企画論文部門論文はすべて公募とすること、一論文の発表に割り当てられる時間は最大 18 分とすること、発表希望者の登録機関とオーガナイザーの発表採否決定機関を分離する、などの変更点が示された。また、企画論文部門について、企画テーマの応募は前年同様であるが、論文題目・概要の登録期間が昨年よりも早まったことも示された。
- ・春大会・秋大会についての議論では、「春大会運営側にセッション統合や企画など調整ができるように裁量権を与え、権限を強めるべき」、「部門（計画学 A-E 部門）間のバランスや旬の話題を組み込む工夫がされるべき」、「フェアにやれるように運営側で環境を整えるべき」等の意見があり、現状よりも春大会幹事の数を増やす（現在 3 名→6 名程度）ことの必要性が確認され、幹事会として増員を認める方針が示された。

また、「オーガナイザーに議論の報告を義務付け、特集号論文集の中に入れる、ただし、その際には議論の報告の使い道を明確にして、オーガナイザーの協力が得られるように配慮が必要であること、また、オーガナイザーではなく、例えば学術小委員会 3 年目委員に部門ごとのレビューをさせ、査読

論文として特集号論文集に入れること」が示された。

- ・春大会・秋大会・全国大会のあり方については、「春大会 SS を全国大会に移行する」、「計画学幹事会・委員会を全国大会時に開催するなど、違う目的でも全国大会に参加する習慣をつける」ことで全国大会の参加者を増やし、活性化させる必要があるとの意見が出た。

他方、春大会の投稿者を全国大会に移行する件については、「計画学委員会の収入に関わるため、春大会と秋大会参加者のバランスを考える方がよい」との意見が出た。

また、学生発表については、「各大学の教育実質化、奨学金返還免除などで発表数が増える見込みもあるため、学生発表のあり方について検討が必要」、「学生の発表はポスターにするなど、短時間で多くの発表を捌く方法の検討が必要」との意見も出た。

#### ・IPML の移行について（資料 H24-3-5）

紀伊委員兼幹事より、IPML の移行について説明がされた。3000 名対応、年間予算は数万円以内で検討し、案を検討し、次回委員会で報告できるように準備する方針が確認された。また、登録者を学会員に限るかどうかについては、広告活動の一環とみなせるため、非会員も含めた方がよいとの意見が出た。

#### ・土木学会・国際化への対応について

兵藤幹事長より、土木学会・国際化への対応について、福田副委員長による小委員会の設立申請が次回委員会であることの説明がされた。

#### ・規則の改正

兵藤幹事長より、規則が H19 以降改正されておらず実態に合っていない現状が示された。規則改正の内容について、兵藤幹事長、塚井委員兼幹事、日比野委員兼幹事で確認し、次回委員会に向けて準備を進めることが示された。

## 6. その他

- ・次回幹事会は H25.4 開催予定であることが示された。

文責 鈴木弘司